
劇場小説版デジモントランスフォーマーズ奇跡のスーパーモード発動！フォールンミレニアモン

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

劇場小説版デジモントランスフォーマーズ奇跡のスーパーモード
発動！フォールンミレニアモン

【Nコード】

N4074V

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

待望の劇場諸説版到来。デジモンの日にちなみ、デジモントランスフォーマーズの劇場小説版を3日かけて作っていました。思いもよらぬ真実が出てきたりします。

デジサイバトロン達は、ある古い町に向かっていた。

「今日は、デジデストロンの攻撃も無くていい日だな。」

「古尾の言うとおりだよ。ここんとこ、デジデストロンの攻撃があまりに来ていない。」

しかし、ショックウェーブモンとメガザラックモンとアイアントレツドモン率いる800体のテラーコンデジモンと500体のヴィーコンデジモンが襲いかかってきた。

「うわぁ！」

「デジサイバトロン、みんな無事か。」

「ああ、大次。」

「ここから先は、メガトロモン様の計画を邪魔するものは一歩たりとも通さない。」

「何を企んでいるんだよ！」

「古代のトランスフォーマー型デジモンを復活させるのである。」

ブラーモンは、少しピンと来ていた。

「貴様らなんか、吹き飛ばすだけで十分だ。行くぜ郎利！」

「ええ！」

「power set evolution」

「ソニックモン進化、ウイングセイバーモン！」

「ウイングウインドエッジ！」

テラーコンデジモンは、次々と消滅していった。

「加勢するぞウイングセイバーモン。」

「スタースクリームモン、一緒に行くぜ。」

「ああ、ナルビームヘル！」

「セイバーファール！」

ヴィーコンデジモンズは全滅した。

「これで観念しろ！」

しかし、メガザラックモンはスタースクリームモンに言った。

「まだ俺達には秘策がある。」

「なにっ？」

突然、地鳴りがした。

「何だ。」

「いでよ、デストロモン25体集団！」

「ぐをああああああ！」

「こいつ等、俺たちでは無理だ。」

「よし、俺達も進化するぞ大次！」

「分かった。」

「ENERGON evolution」

「コンボモン進化、オプティマスプライモン！」

「マグナスモン進化、ゴッドマグナスモン！」

「ジェットモン進化、ジェットファイアモン！」

「バスターモン進化、ロードキングモン！」

「スタースクリームモン進化、ナイトスクリームモン！」

「power set evolution」

「バンクモン進化、レッドアラートモン！」

「ガードモン進化、ガードシエルモン！」

「ポップモン進化、ルーツモン！」

「プリテンダービーストエヴォリューション！ゴッドチータスモン
！」

「デジサイバトロ魂で一気呵成に攻めるぜ！」

「待ってくれ、フォートレスモンマキシマスモード！」

「これで戦える状況になったな。」

「マトリクストライオンインパクト！」

「ゴッドサンダーハンマー！」

「ファイアファイナルバースト！」

「キングストームブレイブ！」

「アーテックスキャノングレード！」

「ポータブルレッドレイザー！」

「ホイールブラスト！」

「ウィングウィンドエッジ！」

「イマジネーションアタック！」

「モンスターキャリバーフレームレールガン！」

「マキシマスファイアー！」

「フライトビーム！」

「マツハレーザー！」

「コースパクメテオ！」

デジデストロンの三体は吹き飛ばされていった。

同時に、デストロモンは全滅した。

「見たか、デジサイバトロンのすごさ。」

「ブラーモンどうした。」

「古代のトランスフォーマー型デジモンで引っ掛かっているのだが・
・・」

一方、デジデストロンは・・・

「馬鹿もの、メガザラックモン達よメガトロモン様の行動に支障を
きたすな。」

サイクロナスモンがメガザラックモン達を説教していた。

「いいぞ、サイクロナスモン。」

「メガトロモン様、これはもしや。」

「そう、聞いて驚け！デジタルワールドにはすでにトランスフォーマー型デジモンが存在しているのだ。」

「すげえ、メガトロモン様その者の名は？」

「スノーストームモン、良い質問だ。こいつの名は、フォールンミレニアモンだ！」

フォールンミレニアモンは、目を覚ました。

「メガトロモンという者か。」

「ああそうだ。」

「お会いできて光栄でございます。吾は、かつてのデジタルワールドの脅威と呼ばれた存在、フォールンミレニアモンでございます。」

「フォールンミレニアモン、此処の四体のデジモンも復活させてくれないか。」

「了解しました。メガトロモン様。吾の力で復活させます。」

「さあ、起き給え。古代のデジテストロンの諸君、再び暴れる時が気が来たのです。さあ我に続いてください。」

「なにつ！」

「悪いが、メガトロモン。お前らにはようはない。ヘルフォールフ

ルバースト！」

フォールンミレニアモンは壁を一瞬で破壊した。

「デジタルトランスフォーム！皆の衆行くぞ！」

「おお！」

一方デジサイバトロンは……

ある遺跡の中にいた。

大次達は、ブラーモンに古代の石板を読んでもらった。

「デジタルワールドに4回ほどオールスパークの欠片が落下していた。その際、幾多にも及んでトランスフォーマー型デジモンが生まれ、それぞれが自らの体を変形させて今のマシーン型やサイボーグ型が生まれ、トランスフォーマー型は次々と数を減らしていった。そんな中、極悪なデジモンフォールンミレニアモン等4体が姿を現し、世界を荒らしまくった。プライマスモンという存在がその5体を封印させた後、プライマスモンのデータは、オメガモン、デュークモン、ドウフトモンに受け継いだ。」

石板に描かれていることは、大次達を驚かした。

「デジタルワールドにオールスパークの落下回数が4回！」

「今回の落下入れれば、5回目だよ。」

羽渡の言うとおりである。

突然、マツハアライトモンから通信が来た。

「来たぞ！デジデストロンの連中が。しかし今までとは違う。」

「分かった。行こうオプティマスプライモン。」

「そうだな大次。よしっ、デジサイバトロン出撃だ！」

「おおー！」

フォールンミレニアモン率いる4体のデジデストロン。

バイオレンジャイガモン 究極体 必殺技「デストロップゴースト」

スカルペルモン 完全体 必殺技「ファイナルメス」

アリスモン ハイブリット体 必殺技「ヒューマザキル」

オオクワモン 完全体 必殺技「シザーアームズΩ」

「究極体のデジモンは、バイオレンジャイガモンとフォールンミレニアモンを。完全体と成熟期のデジモンは、オオクワモンとスカルペルモンを。ハイブリット体は、ジンライモン頼むぞ。」

「了解！」

デジサイバトロンの総攻撃が始まった。

「行くぜ！ロードハンティングバスター！」

「ナルビームヘルオール！」

バイオレンジャイガモンは、そう簡単にはくたばらなかった。

「無駄だ！デストロップゴースト！」

「くっ、幽霊型重力攻撃か。」

「つぶれて消える！」

「マトリクスインパクト！」

技が相殺した。

一方、オオクワモン達と戦っている側は……

「ホイールハリケーン！」

「こいつ等、ややこしい攻撃をしゃがって。」

「ファイナルメス！」

「させるか、ソニックランチャーブラスト！」

「ぎゃあああああああ！」

スカルペルモン消滅。

一方、ジンライモンとアリスモンは、ジンライモンが手こずってい

た。

「こいつ、強い。」

「私は、人間に化けることであなたのような力を超えられるのよ。」

「しかし、疾風迅雷パンチ！」

「何よ！私の大切な体を壊すつもりなの！良いわ、壊される前に壊してやる。ヒューマザキル！」

ジンライモンは、うまくよけた。

「相当な強さだな。しかし、俺はゴッドチータスモンと合体することができる。プリテンダーダブルエヴォリション！ゴッドジンライモン！」

「ゴッドイレイザーフルバースト！」

アリスモンに命中して、叫び声を出して消滅した。

オオクワモンは、消滅しかけていた。

「止めだ！オーパーツミッション！」

「ぐいあああ！」

オオクワモン消滅。

バイオレンジャイガモンの攻撃に苦戦していたオプティマスプライ

モン達。

「俺達の力を見せてやれ！」

「大次任せとけ！フォー スチップイグニッション！トライデントジヤスファング！」

「ゴッドスピーディハリケーン！」

「ジェットバーストガーディアン！」

「フラッシュスパークリミット！」

「アーテックスキャノングレード！」

「マスターソードフルスピードアタック！」

バイオレンジャイガモンは、6つの技を食らい大爆発した。

「フォールンミレニアモンの攻撃でも食らえばお前たち全員死ぬ・
・・」

そう捨て台詞を決めて、バイオレンジャイガモン消滅。

そして、ついにフォールンミレニアモンとの最終決戦が始まった。

「マトリクスキャノン！」

「ウルトラサンダーバースト！」

フォールンミレニアモンに命中していたのだが……

「吾には、そのような攻撃は効かない！」

「なにっ！」

「ダークスライニングフルーチャ！」

フォールンミレニアモンの体から50本の触手が現れた。

オプティマスプライモン達は、必死に振り切ろうとするも触手に襲われてしまった。

「くっ、動けない。」

ナイトスクリームモンは、スタースクリームモンに退化してしまった。

「阿連種、すまない。」

「大次、これでは……」

「くっ、もう駄目なのか。」

「スプンドフックファイナル！」

紫の巨大な球が、デジサイバトロンの襲いかかりそうになった時、プライマスモンの面影がフォールンミレニアモンの攻撃に当たり消えた。

そして、大次、江利彦、左利、鬼束の四人のデジヴァイスに光のエネルギーゴンカードが差し込まれた。

「此の光はまさか。」

フォールンミレニアモンは触手を体にしまった。

「此の光は、もしかして行けるかも。」

「うん！」

「SUPER ENER GON evolution」

「オプティマスプライモンスーパーモード！」

「ゴッドマグナスモンスーパーモード！」

「ジェットファイアモンスーパーモード！」

「ロードキングモンスーパーモード！」

4体のデジモンはスーパーモードになった。

フォールンミレニアモンは、少々後ずさりした。

「なに、スーパーモードに進化した。ふんっ、我を封印したプライマスモンに比べれば弱い。」

「さあーて、それはどうかな。」

オプティマスプライモンスーパーモードは、右腕の爪で攻撃した。

「オプティマスグレイクロー！」

フォールンミレニアモンの体の一部が消滅した。

「なっ！こいつ、ダークスライニングフルーチャ！」

「触手攻撃は通用しない！レジェンドマグナスショット！」

触手すべてが消滅した。

「こんなことが、はっ！」

「俺達の力を見せてやる！マトリクスファイナルインパクト！」

「スーパーマグナスインパクト！」

「ファイアブレードフルバースト！」

「エクセレントキングバーストアタック！」

4体のスーパーモードの力がプライマスモンに見えた。

「黄金の輝き、ふざけるな！ダークサラマンダフォールン！」

紫色の破壊音波を食らっても彼らの体制が崩れなかった。

「く、来るなああああああああ！」

「これでジ・エンドだ！」

4体のスーパーモードは、フォールンミレニアモンの体を貫通した。

「ぎゃややああああああああああああ！我は絶対滅ばない。」

4体は、フォールンミレニアモンにこう告げた。

「お前はこれで滅んだ存在。さあ、潔く消えるのだ。」

「我は、われはあああああああああああ！」

フォールンミレニアモン消滅。

消滅後、歓声が響き渡った。

「すごいぜ！ロードキングモン達！」

「一時はどうなるかと思ったけど、奇跡による形勢逆転だったな。」

「ああ！」

夕方になり、デジサイバトロンは自らの栄光をたたえパーティーで盛り上がった。

「マツハアライトモン、エネルゴンの飲み過ぎだよ。」

「言っとくが、戦い疲れてエネルゴンを飲みまくりたいんだ。ヒク

ッ！
」

大次達は、こうして苦難を乗り越えて新しい朝を迎えることにした。

デジモントランスフォーマーズ劇場小説版奇跡のスーパーモード発
動フォールンミレニアモン 完結！

（後書き）

いかがでしたか、劇場小説版。本編も再びお楽しみにください。」「最後にオプティマスプライモンからの報告だ。」

「諸君、我々の活躍を見てくれてありがとう。そして、本編では明かされなかった衝撃の真実が明かされているので要チェックだ。では本編でまた会おう！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4074v/>

劇場小説版デジモントランスフォーマーズ奇跡のスーパーモード発動！フォー

2011年10月9日22時53分発行